

InstallShield 2020 Express Edition リリース ノート

オリジナル リリース 2020 年 5 月、R3 SP1 を含むアップデート リリース (2021 年 6 月)、R3 を含むアップデート リリース (2020 年 11 月)、R2 を含むアップデート リリース (2020 年 8 月)

はじめに.....	2
R3 SP1 での変更点.....	2
R3 での変更点.....	2
InstallShield Azure DevOps ビルド拡張.....	2
新しい機能.....	3
ピュア 64 ビット インストーラー.....	3
AWS CloudHSM ベースのデジタル署名をサポート.....	3
強化機能.....	4
InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition.....	4
InstallShield 2020 R3 Express Edition.....	5
ライセンス チェックのタイムアウトをサポートする新しいコマンドライン パラメーター.....	5
InstallShield 2020 R2 Express Edition.....	5
再配布可能ファイル ダウンローダー.....	5
InstallShield 2020 Express Edition.....	6
エラー以外のすべてのコマンドライン出力のビルドを抑制する機能.....	6
Setup.exe のファイルバージョン構成.....	7
新しいセットアップ前提条件.....	7
重要な情報.....	7
InstallShield の評価.....	7
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する.....	8
InstallShield の複数エディションをインストールする.....	8
InstallShield の複数バージョンをインストールする.....	8
[アップデート通知] ビューの削除.....	9
プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....	9
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....	9
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....	10
文字列のローカライズに関する考慮.....	10
バグ修正.....	10
InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition.....	11
InstallShield 2020 R3 Express Edition.....	11
InstallShield 2020 R2 Express Edition.....	12
InstallShield 2020 Express Edition.....	12
システム要件.....	13

InstallShield を実行するシステムの要件.....	13
ターゲット システムの要件	14
既知の問題.....	15
法的情報.....	15

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2020 Express Edition では、最新テクノロジーを手軽に使用できるようにする新しい機能、強化機能、およびバグ修正も提供されています。

R3 SP1 での変更点

InstallShield 2020 R3 SP1 には、以下の変更が含まれています:

- R3 SP1 に含まれる強化内容は「[InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition](#)」を参照してください。
- R3 SP1 のバグ修正問題については、「[InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition](#)」を参照してください。

R3 での変更点

InstallShield 2020 Express Edition R3 には、次のような変更が含まれています。

- [InstallShield Azure DevOps ビルド拡張](#)

InstallShield Azure DevOps ビルド拡張

InstallShield 2020 R3 では、Azure DevOps Pipelines で InstallShield プロジェクトをビルドするネイティブ拡張が追加されました。タスクを構成して InstallShield プロジェクトをビルドするには、[InstallShield Azure DevOps ビルド拡張のサポートの技術情報の記事 \(英語\)](#) を参照してください。

新しい機能

InstallShield 2020 Express Edition には、以下のような新しい機能が搭載されています:

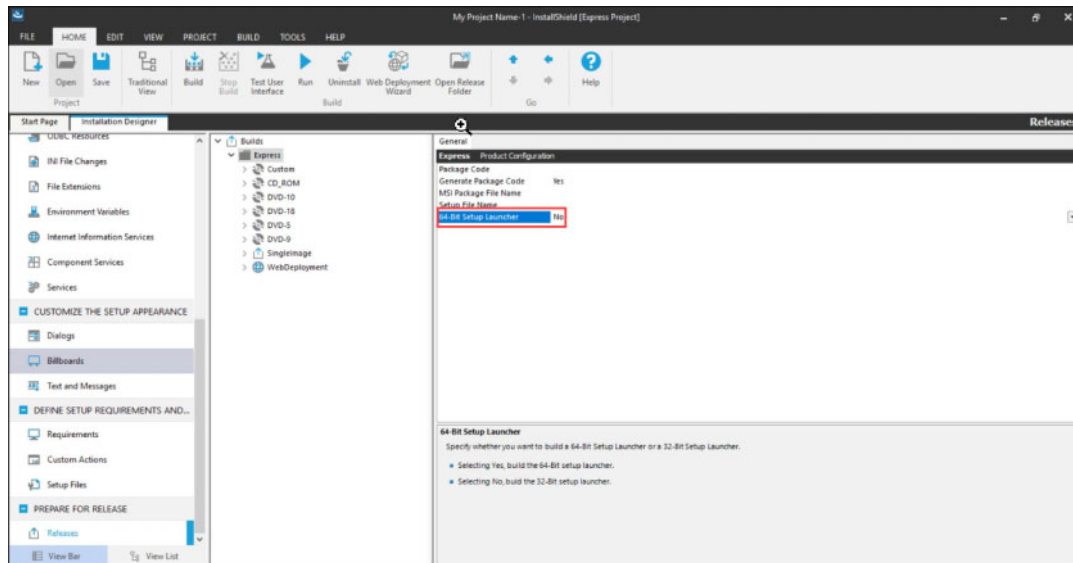
- [ピュア 64 ビット インストーラー](#)

- [AWS CloudHSM ベースのデジタル署名をサポート](#)

ピュア 64 ビット インストーラー

InstallShield 2020 R1 Express Edition より、64 ビット ランチャーを使用するインストーラーを作成できるようになりました。

ピュア 64 ビット インストーラーを作成するには、[製品の構成] ビューに移動して **"64 ビット セットアップランチャー"** プロパティで [はい] を設定します。



AWS CloudHSM ベースのデジタル署名をサポート

InstallShield Express を使って、今回より AWS CloudHSM ベースのデジタル署名を使ってインストーラーにデジタル署名を行うことができます。

この機能を有効化するには、次の場所にある Settings.xml ファイルの下に表示される次のプロパティを追加してください:

```
<<InstallShield_Location>/Support/<0409¥0411>Settings.xml
```

次のプロパティを Settings.xml ファイルに追加します:

```
<!-- Specify Platform = X86 | X64 for Digital Signing -->
<DigitalSignature Platform="X64"/>
```

強化機能

InstallShield 2020 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含リリースされています。

- [InstallShield 2020 R3 Express Edition](#)

- [InstallShield 2020 R2 Express Edition](#)
- [InstallShield 2020 Express Edition](#)
- [InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition](#)

InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition

InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition には、次の強化機能が含まれています。

- [VC++ 2019 前提条件による再開の機能強化](#)
- [.NET コア 3.1.12 前提条件](#)
- [.Net コア 5.0.3 前提条件](#)
- [.Net Core 5.0 Hosting Bundle 前提条件](#)
- [Microsoft SQL Server 2016 Express Management 前提条件](#)

VC++ 2019 前提条件による再開の機能強化

VC++ 2019 再配布可能ファイルのインストール中、TEMP フォルダー内に作成される一時ファイルの名前の変更が保留されるため、InstallShield VC++ 2019 前提条件が再開する問題を解決。

VC++ 2019 前提条件のインストール中に TEMP フォルダーに作成された一時ファイルの PendingFileRenameOperations 登録キーの変更を無視するように InstallShield VC++ 2019 前提条件および InstallShield 2020 R3 前提条件エンジンが変更されました。

この変更の結果、VC++ 2017 再配布可能ファイルと共にインストールされたマシン上にインストールされた後でも、InstallShield VC++ 2019 前提条件がマシンを再開することが無くなりました。



メモ・この変更は IOJ-2186316 として記録されています。

.NET コア 3.1.12 前提条件

前提条件一覧に .NET core 3.1.12 前提条件の再配布可能ファイル一覧が追加されました。



メモ・この変更は IOJ-2182152 として記録されています。

.Net コア 5.0.3 前提条件

x64 および x86 アーキテクチャをサポートする .NET Desktop Runtime 5.0.3 および ASP.NET Core Runtime 5.0.3 用の前提条件ファイルが作成されました。



メモ・この変更は IOJ-2178383 として記録されています。

.Net Core 5.0 Hosting Bundle 前提条件

.Net Core 5.0 Hosting Bundle の前提条件が作成されました。



メモ・この変更は IOJ-2163273 として記録されています。

Microsoft SQL Server 2016 Express Management 前提条件

Microsoft SQL Server 2016 Express Management オブジェクト用の前提条件ファイルが作成されました。



メモ・この変更は IOJ-2160465 として記録されています。

InstallShield 2020 R3 Express Edition

InstallShield 2020 R3 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています:

- ・ [ライセンス チェックのタイムアウトをサポートする新しいコマンドライン パラメーター](#)

ライセンス チェックのタイムアウトをサポートする新しいコマンドライン パラメーター

新しく追加されたコマンドライン パラメーター “-licCheckTimeOut >” を使って、ライセンス サーバーからライセンスを使用可能かどうかチェックする時間帯を設定することができます。

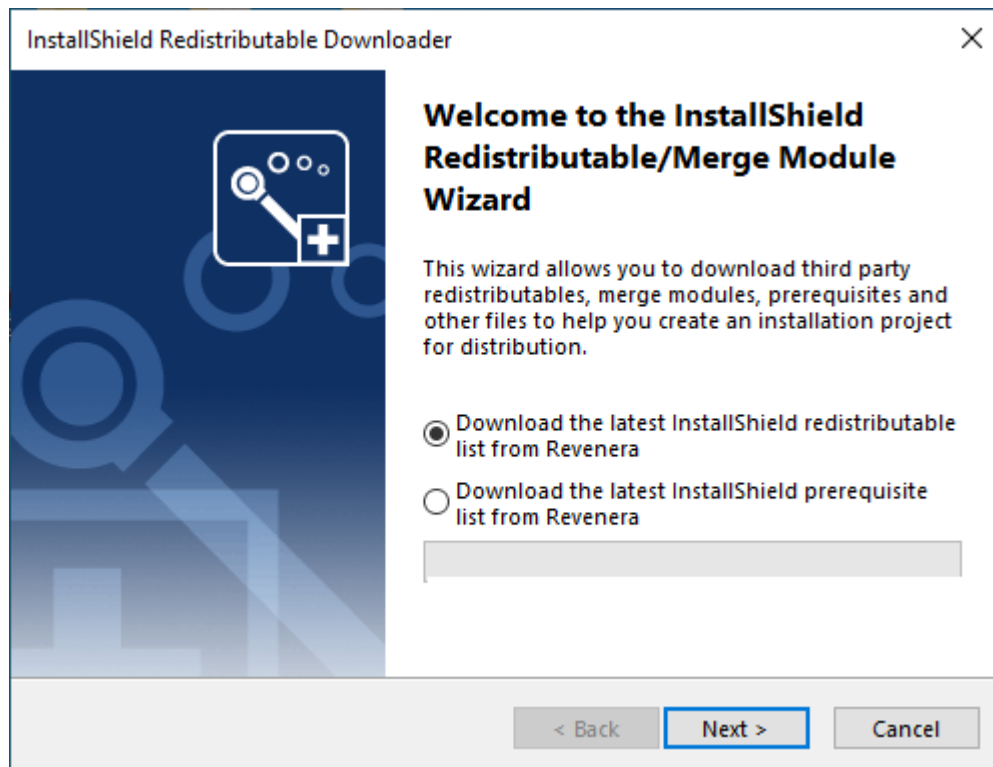
InstallShield 2020 R2 Express Edition

InstallShield 2020 R2 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています:

- ・ [再配布可能ファイル ダウンローダー](#)

再配布可能ファイル ダウンローダー

InstallShield Express 再配布可能ファイル ダウンローダー ウィザードの機能が強化されており、最新の前提条件ファイルを素早くダウンロードすることができます。



メモ・この変更は 10J-2117349 として記録されています。

InstallShield 2020 Express Edition

InstallShield 2020 Express Edition には、次のような新しい強化機能が含まれています。

- ・ エラー以外のすべてのコマンドライン出力のビルドを抑制する機能
- ・ Setup.exe のファイルバージョン構成
- ・ 新しいセットアップ前提条件

エラー以外のすべてのコマンドライン出力のビルドを抑制する機能

InstallShield Express 2020 には、新しいコマンドライン パラメーターが追加されています: /seこのパラメーターが使用されると、すべてのコマンドライン ビルドの出力が抑制され、(存在する場合) エラーのみが表示されます。



メモ・この変更は 10J-2077162 として記録されています。

Setup.exe のファイルバージョン構成

今回より、[リリース] ビューで setup.exe のファイルバージョンを構成可能で、-fv スイッチを使ってコマンドラインでプロジェクトの設定をオーバーライドすることができます。



メモ・この変更は 10J-1605084 として記録されています。

新しいセットアップ前提条件

InstallShield Express 2020 では、次のセットアップ前提条件されています：

- Microsoft OLE DB Driver 18.3.0.0
- Microsoft SQL Server 2019 Express
- Microsoft Visual C++ 2019
- Microsoft .NET Core Framework 3.1
- Updated install conditions for .NET Framework 4.8

重要な情報

InstallShield 2020 Express Edition リリースに関する次の重要な情報に注意してください：

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- [\[アップデート通知\] ビューの削除](#)

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2020 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2020 DIM Editor を、InstallShield 2020 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2020 Express Edition は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2020 Express Edition Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

[アップデート通知] ビューの削除

InstallShield 2020R1 より、FlexNet Connect を統合して InstallShield を使ってアップデートを確認できる、アップデート通知機能のサポートが終了しました。この統合で使用されたマージモジュールは、今回より InstallShield にバンドルされていません。これまでこの統合機能をご利用いただいたお客様には、以前の InstallShield インストールからマージ モジュールをコピーして、引き続き同じ機能をご利用いただくことができます。詳細については、[ここをクリックしてください](#)。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2020 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2020 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2020 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2020 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2020 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2020 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスト UI、およびスイート/アドバンスト UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield Express Edition の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition](#)
- [InstallShield 2020 R3 Express Edition](#)
- [InstallShield 2020 R2 Express Edition](#)
- [InstallShield 2020 Express Edition](#)

InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition

InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2193899	VC++ 2010 前提条件の実行時 URL に誤りがありました。この問題を解決するために、製品内および Satum サーバーに正しい前提条件 ファイルが更新されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2160741	VS 2008 SP1 再配布可能ファイル パッケージを Microsoft Web サイトからダウンロードすることができませんでした。このパッケージは前提条件ダウンローダーを介して配布されるようになりました。
IOJ-1928355	前提条件セットアップがマップされたドライブからの前提条件のインストールに失敗し、「セットアップ初期化ファイルの読み込みエラー」エラーが発生しました。この問題は解決されました。

InstallShield 2020 R3 Express Edition

InstallShield 2020 R3 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2130601	Setup.exe の名前を setup.org に変更した場合、CreateProcess を使って呼び出した時にセットアップが起動しませんでした。今回より、セットアップは setup.exe および setup.org の両方の名前で起動します。
IOJ-2148734	.NET Core 3.1 PRQ for Windows Hosting Bundle Installer を Web からダウンロードおよび Setup.exe から抽出できます。
IOJ-2130141	インストール中、特定のコンポーネント サービスのインストールが失敗しました。今回より、PLerror.dll が正しく登録され、特定のコンポーネント サービスが正しくインストールされます。
IOJ-1898198	前提条件の読み込みに失敗したときに、エラー通知が表示されませんでした。今回より、前提条件の読み込みに失敗したとき、適切なエラー メッセージが表示されます。

InstallShield 2020 R2 Express Edition

InstallShield 2020 R2 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-1720983	ディスク空き容量が少ないマシン上で、プロジェクトのビルド中に InstallShield がクラッシュしました。この問題は解決されました。

InstallShield 2020 Express Edition

InstallShield 2020 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2109648	[ビルドの設定] ダイアログで "プリプロセッサ定義" フィールドが空白の場合、InstallShield が InstallScript MSI プロジェクトをビルド中にクラッシュする問題がありました。この問題は解決されました。
IOJ-2104998	Microsoft OLE DB Driver for SQL Server 18.2.2.0 の x86 および x64 用前提条件ダウンロードの場所は、前提条件が Web からダウンロードされたときに破損する問題がありました。ダウンロード リンクが本リリースで修正されました。
IOJ-2102367	Microsoft SQL Server Compact 4.0 (x64).prq のダウンロード リンクが Microsoft に変更されたため、InstallShield 2019 でこの前提条件を使用中にダウンロード エラーが発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2102365	NET Framework 4.8 の前提条件が、誤ったリリース番号を確認したために、Windows 10 1903 および 1909 リリースで問題が発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2083142	InstallShield 2018 および 2019 で、Microsoft SQL Server 2012 Native Client 11.2.5058.0 x64 の前提条件をダウンロードできませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-1851668	アップデートの確認に使用されるバイナリ (OpenSSL) が脆弱性をもたらす問題がありました。今回、バイナリ (OpenSSL) が削除されました。
IOJ-2106599	InstallShield 2018 以降でビルドされたインストーラーを使用して配置された Web アプリケーションの web.config ファイルに、"統合 Windows 認証" 設定に [いいえ] が選択されたとき Windows 認証モード エントリが含まれました。このため、Web アプリケーションの開始に失敗する問題がありました。この問題は解決されました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

- [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- [ターゲット システムの要件](#)

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008Windows 7Windows Server 2008 R2Windows 8Windows Server 2012Windows 8.1Windows Server 2012 R2Windows 10Windows Server 2016Windows Server 2019
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

項目	説明
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2008 • Visual Studio 2010 • Visual Studio 2012 • Visual Studio 2013 • Visual Studio 2015 • Visual Studio 2017 • Visual Studio 2019 <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Professional • Premium • Ultimate

ターゲット システムの要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2020 R3 SP1 Express Edition の既知の問題はありません。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2021 Flexera Software

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。